

令和7年度 第2回学校評価アンケート結果

余寒の候、平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。令和7年度第2回学校評価アンケートを実施しましたので、結果と分析についてお知らせいたします。

令和7年度
京都市立京都北小中学校
校長 高橋 秀延
〒601-0251 京都市右京区周山町中山51
TEL 075-852-1133 FAX 075-852-1144




学校教育目標 自ら学び 共に励み 志をもって 未来を拓く 子どもの育成
～ かしこく やさしく たくましく ～

資質・能力

読解力 対話力 テキストを読み解く 考えをもつ
考えを交流し深める

人権意識 実践行動力 人権についての知的理解
人権感覚 実行する力

自己指導 自己調整力 自律 セルフコントロール
主体性 粘り強さ 調整

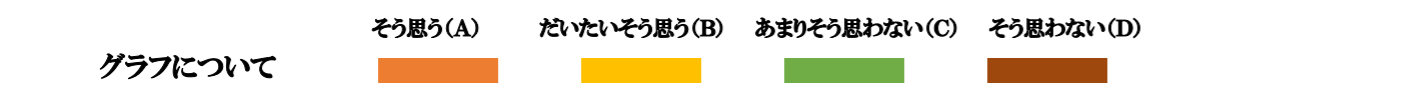
めざす生徒像

かしこく 確かな学力を身に付け、志をもって、主体的に自己実現と問題解決に取り組む生徒

やさしく ふるさと京北を愛し、多様な価値を尊重する正しい人権感覚をもって、仲間と協働する生徒

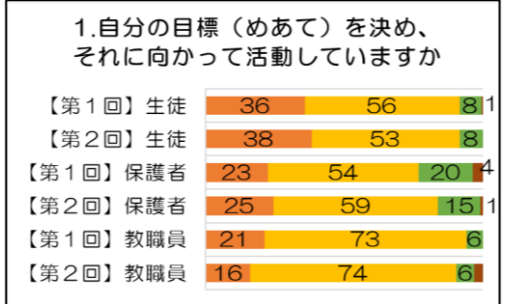
たくましく 心身の健康維持と体力向上に向けて努力し、調整しながら明るく粘り強く、しなやかに取り組む生徒

学校生活全体について



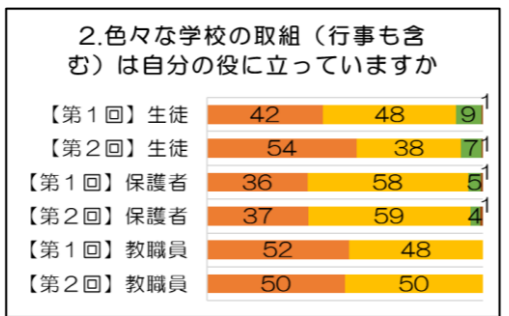
「1. 自分の決めた目標に向かって活動していますか」

生徒の約9割が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答し、第1回と同様に前向きな姿勢が維持されています。「そう思う」がわずかに増えており、目標設定への意識が高まったことがうかがえます。保護者の回答では「だいたいそう思う」が増え、生徒の取組がより肯定的に認識されていることが分かります。今後も、生徒の目標が形だけにならないよう、振り返りや支援を通じて着実な成長を促すとともに、教職員間での認識の共有も図っていきます。



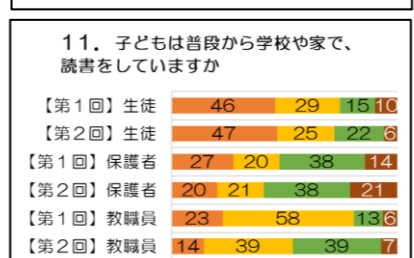
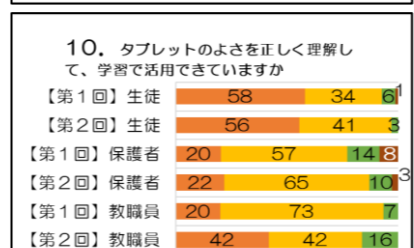
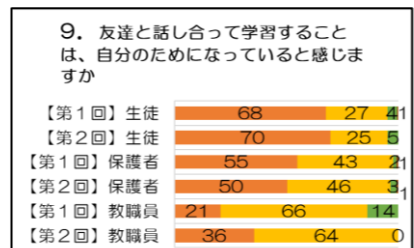
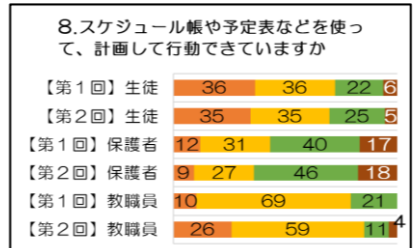
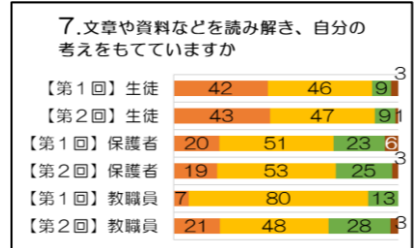
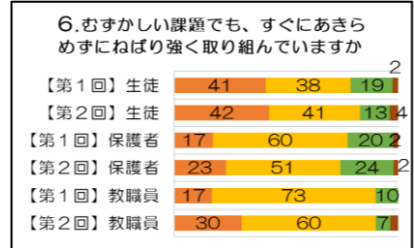
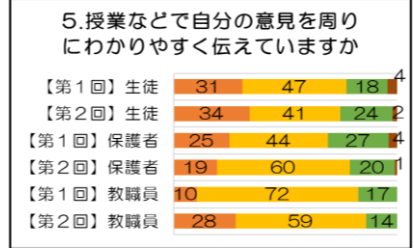
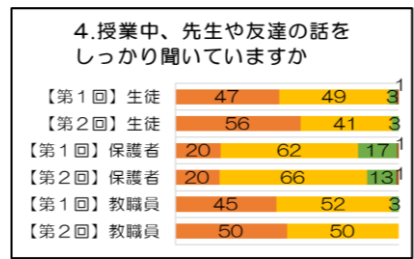
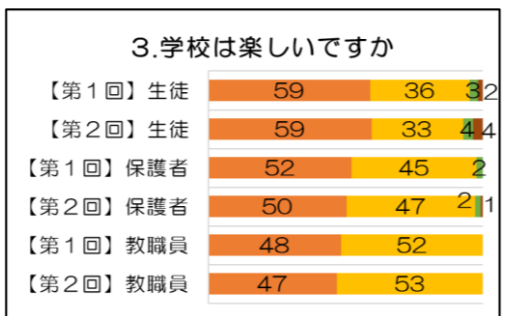
「2. 学校の取組は自分の役に立っていますか」

生徒の約9割が非常に高い評価を維持しています。特に「そう思う」が大きく増加しており、意識が高まったことがうかがえます。これは、2学期に行事や委員会活動など責任ある役割を果たす機会が多かったことが影響していると考えられます。保護者の回答も引き続き高水準で、「あまりそう思わない」「思わない」は減少傾向にあり、家庭でも学校の取組が肯定的に受け止められています。教職員は全体的に高評価を維持しており、均衡化が見られます。今後も、生徒が主体的に活動できる場を計画し、努力や成果を意識的に評価することで、さらなる意欲の向上を支援していきます。



「3. 学校は楽しいですか」

生徒の約95%が「学校は楽しい」と感じており、学習や行事、友人との関わりなど、日々の学校生活に充実感を持っている様子がうかがえます。保護者も、子どもが学校生活を前向きに過ごしていると感じており、教職員もほとんどの生徒が学校生活を楽しく感じています。今後も、生徒一人一人が安心して過ごせるよう、教職員が日常の関わりの中で温かく寄り添い、笑顔のあふれる学校づくりを進めていきます。



確かな学力の育成について

- 「4. 授業中、先生や友達の話をしっかり聞いていますか」
- 「5. 授業などで自分の意見を周りにわかりやすく伝えていきますか」

生徒の97%が「話をしっかり聞いている」、75%が「意見を分かりやすく伝えていく」との回答で、特に「そう思う」の割合が高くなっていました。本校では、国語科を中心に「対話力」の育成に取り組んでいます。様々な授業で、資料やスライドを使ったプレゼンテーション、意見交流を取り入れた学習活動も行い、相手意識を持った伝え方を学ぶ場も設定しています。

話す・聞く技能に加え、考えたことを相手に伝える力、またはどう伝えるか考える力を育てられるよう指導していききたいと思います。

- 「6. むずかしい課題でも、すぐにあきらめずにねばり強く取り組んでいますか」

第1回・第2回ともに8~9割の生徒が肯定的に回答しており、多くの子どもたちが自分の頑張りを前向きにとらえていることが分かりました。2学期は行事や学習で挑戦の機会が多く、「そう思う」と答える割合も増加しました。一方、授業の様子からは、課題にぶつかったときに気持ちが続かず、粘り強さを十分に発揮できない場面も見られます。粘り強さの表れ方には個人差があり、「どういう姿を目指すのか」を具体的にイメージしにくい子もいます。今後は、一人一人に合った目標づくりや振り返りを工夫し、あきらめずに取り組む姿勢を育てていきます。

- 「7. 文章や資料などを読み解き、自分の考えをもてていますか」

生徒の約9割が肯定的な回答をしており、第1回と同様に高い水準で維持されています。一方で、保護者の回答とは差が見られ、家庭では読解のつまずきや、内容を十分に整理できていない様子が垣間見えていることがうかがえます。また、第2回では教職員の「そう思う」が減少し、読解の実態についてより慎重な見方が示されています。読み解く力は、文字を読むだけでなく、情報を整理し、自分の考えを構築する高度な力であり、自分自身では把握しにくい力でもあります。今後も授業の中で、資料の比較や根拠の明確化など、思考を深める活動を重ねることで、実際の読解力を育成し、評価につなげていきます。

- 「8. スケジュール帳や予定表などを使って、計画して行動できていますか」

第1回と同程度の結果となっており、予定管理の習慣化にはまだ課題が残っています。保護者の回答からも計画的な行動が十分に根づいていないと感じられています。授業や学級経営の中でスケジュール帳や予定表の活用を引き続き指導、支援してまいります。

- 「9. 友達と話し合って学習することは、自分のためになっていると感じますか」

生徒の約9割が、話し合い活動が学びに役立っているという実感があり、保護者の回答も大きな変化はありません。授業では話し合いを授業の中で意識的に位置付けしています。もっとも、話し合いは実施すること自体が目的ではなく、考えが深まったり整理されたりすることに価値があります。今後も、生徒が対話を通して学びの意味を実感できるよう、活動の質を高めていきます。

- 「10. タブレットのよさを正しく理解して学習で活用できていますか」

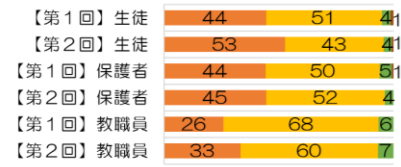
端末を授業で活用できている実感はあります。ただ、学習アプリの使用が増える中で、遊び感覚で操作が続く場面もあり、活用の質の向上については引き続き課題があるととらえています。今後も端末の利点を生かした指導を継続してまいります。

- 「11. 普段から学校や家で、読書をしていますか」

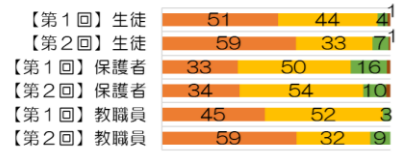
生徒と保護者の回答に差があり、家庭での読書習慣には課題が見られます。学年で読書環境には違いがあり、1st ステージでは授業でメディアセンターを利用する機会が多く、本に親しみやすい状況があります。一方、上級生は学習や活動が増える中でも、朝の5分読書を中心に読書時間を確保しています。今後は、1st ステージでは「読書が楽しい」と感じられる活動を、上級生には本を選びやすい仕組みづくりを進め、短時間で読書に親しめるよう支援してまいります。

豊かな心の育成について

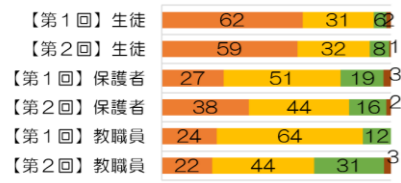
12. 友達にいやなことを言ったりしだりせず、相手の気持ちを考えて行動していますか



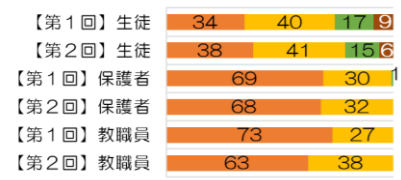
13. 仲間がこまっていたら、積極的に助けることはできていますか



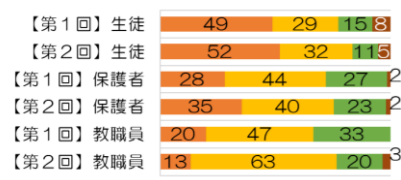
14. 「おはよう」「こんにちは」等、進んであいさつはできていますか



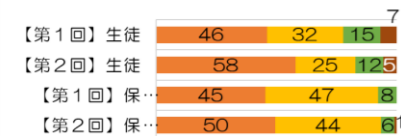
15. 自分のよいところに気づいていますか(言えますか)



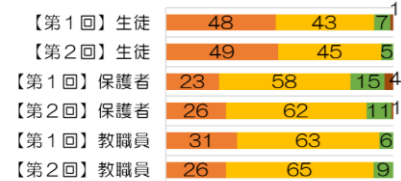
16. 将来のことに考えていますか



17. 家族に学校や学級のことについて話していますか



18. 相手に応じて、ていねいな言葉づかいができていますか



19. 困ったことがあったときは家族や先生に相談していますか



「12. 友達にいやなことをせず、相手の気持ちを考えて行動していますか」

「13. 仲間がこまっていたら、積極的に助けることはできていますか」

第2回のアンケートでも、生徒の多くが「友達の気持ちを考えて行動している」「困っている仲間を助けている」と回答し、いずれも肯定的な回答が9割を超える結果となりました。日頃の学校生活をみても、友達に声をかけたり、作業や当番をさりげなく手伝ったりする姿が多く見られ、こうした関わりが自然な形で定着していることがうかがえます。

これまで本校では、異学年での活動や「ありがとうカード」の取組など、互いの良さを認め合い、感謝を伝え合う機会を大切にしてきました。こうした日々の積み重ねが、温かい人間関係の構築につながり、今回のアンケート結果にも表れていると考えています。今後も、子どもたちが安心できる関係の中で互いに支え合い、思いやりの心を育みながら成長していけるよう、温かい集団づくりを継続していきます。

「14. おはよう、こんにちは等、進んであいさつはできていますか」

第2回のアンケートでは、生徒の約9割が「おはよう」「こんにちは」などの挨拶ができていますと回答し、第1回と同様に高い結果となりました。一方で、保護者や教職員の肯定的回答は生徒よりもやや低く、大人が感じ取っている挨拶の様子と、子どもたち自身の認識との間に少し違いが見られました。

登校の様子を見てみると、自分から挨拶をしようとする生徒は増えていますが、声の大きさやタイミングによって相手に届いていない場面もあります。子どもたちにとっては「言ったつもり」でも、聞こえない場合は相手に伝わらず、この感覚の違いがアンケート結果にも影響していると考えられます。

これまで本校では、生徒会やPTAによるあいさつ運動など、挨拶を大切に取る取組を続けてきました。しかし、朝の雰囲気や周囲の状況によって、挨拶が自然に出にくい時もあるなど、まだ課題も残っています。挨拶は、相手を大切に思う気持ちを伝える大事な機会でもあるため、これからも「相手に届く挨拶」を大事にしながら、気持ちのよい関わりが広がるよう環境づくりを進めていきたいと考えています。

今後も、挨拶の大切さを子どもたちと共有しながら、学校・家庭・地域が一緒になって温かい関係づくりを支えていけるよう、取組を継続してまいります。

「15. 自分のよいところに気づいていますか」「16」「17」も含め

大人は子どものよいところをよく理解しており、「言える」と答えた割合も高くなっています。こうした「よき」が、将来につながる話題として家庭で自然に語られるようになると、子どもが自分の価値を実感したり、学校での出来事を家庭で話したりするきっかけにもなると考えられます。

学校では、子どもたちのよいところを見つけて生かす学習指導や、将来を見通すための進路指導に取り組んでいます。家庭と学校がそれぞれの立場で子どもの“よき”を支え合うことで、子どもが前向きに成長していく力につながると期待しています。

「18. 相手に応じて、丁寧な言葉づかいができていますか」

生徒の約9割が「丁寧な言葉づかいができています」と回答し、第1回と同様に高い結果となりました。教職員からの評価でも肯定的な割合が高く、学校生活の中で、子どもたちが相手に応じた言葉づかいを意識できている様子が見えます。

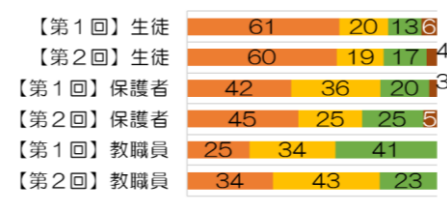
特に学年が上がるにつれて、場に応じた丁寧な言い方が自然にできるようになるなど、小中一貫校として上級生の姿から学べる環境が良い影響を与えていると感じます。今後も、学校では教職員が手本となる言葉づかいを心がけながら、子どもたちがよりよい表現を身につけていけるよう、日々の関わりを大切にしていきます。

「19. 困ったことがあったときは家族や先生に相談していますか」

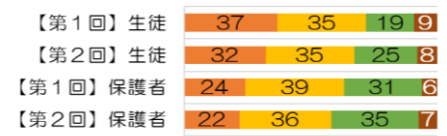
生徒の約8割が「困ったときに相談している」と回答している割合が第1回よりわずかに上昇し約8割となりました。特に1stステージの子どもたちは、身近な大人に相談しようとする姿がよく見られ、安心して話せる環境の中で“助けを求め力”が育っていることがわかります。一方で、高学年になるほど相談する割合は低くなります。これは必ずしも大人への相談をためらっているわけではなく、自己解決しようとする力が伸びている表れでもあり、成長の一つの姿として前向きに受け止めています。

学校には、担任をはじめ、養護教諭やスクールカウンセラーなど、多様な大人が子どもたちを支えています。子どもが本当に困ったときには、誰にでも安心して話せるよう、これからも相談しやすい環境づくりを大切にしていきます。

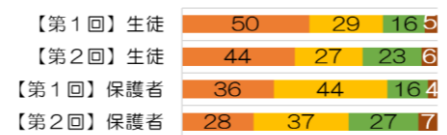
20. 外遊び、スポーツなどでよく体を動かしていますか



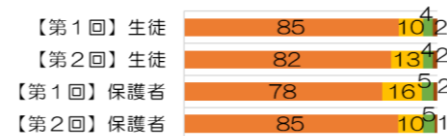
21. 「早寝」の習慣が身に付いていますか



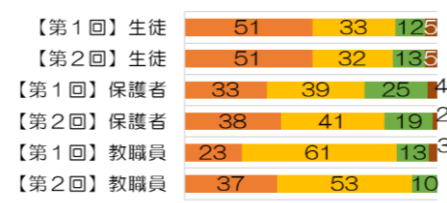
22. 「早起き」の習慣が身に付いていますか



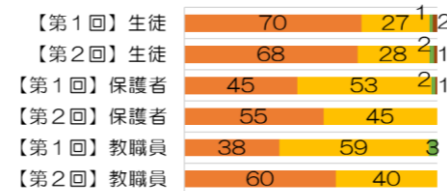
23. 「朝ごはん」の習慣が身に付いていますか



24. 好き嫌いをせず食事をしていきますか



25. ルールやマナーを守って安全に登校できていますか



部活動については、今後の地域展開に向けて国全体で大きく変化している状況があります。本校としても、生徒の意欲や体験の機会を大切にしながら、よりよい形で活動が継続できるよう検討を進めてまいります。

いただいたご意見の一つ一つを真摯に受け止め、子どもたちが「東京都京北小中学校でよかった」と思えるような環境づくりに、教職員一同力を尽くしてまいります。今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎学校運営協議会より

部活動の地域展開については、京北らしい活動ができるよう、地域の方への情報提供をお願いしたいです。また、勝ちだけにこだわる指導や体罰等があってはいけないので、指導される方の研修会があればと思います。読書習慣の低下については、大人も本よりスマホを手にする人が多いと感じます。本を読むことで想像力が育ち、人の心が分かる力や思いやりにつながるのではないのでしょうか。学校施設は精密なものが多いため、専門家とも連携して日頃から安全点検を丁寧に行ってほしいです。給食の民間委託については、前向きにとらえることも必要で、今後、広く試食機会があるとよいですね。

健やかな体の育成について

健康・安全に関する項目では、全体として良好な傾向が見られました。質問20「外遊び・スポーツ」では、生徒の回答は前回とほぼ変わっていません。外で遊ぶ生徒、部活動に参加している生徒はその活動を運動として捉えて回答している様子が見えます。

質問21・22「早寝・早起き」では、一定数の生徒に課題が見られました。特に「早寝」については、遊びだけでなく、テストや受検(験)に向けた学習で就寝が遅くなるケースも考えられます。学校としては、保健指導を通して睡眠の大切さを伝えていきます。

質問23「朝ごはん」は多くの生徒に習慣として定着しており、家庭の協力に感謝しています。質問24「好き嫌い」では、大きな偏りは見られず、給食を通してバランスよく食べられている様子が見えます。

質問25「安全な登校」については、高い水準が維持されており、日頃からの地域や保護者の見守りに支えられています。今後も、安全に登校できる環境づくりに努めていきます。

◎自由記述について

自由記述では、学校行事や安全面、学習環境、部活動など、さまざまなご意見をいただきました。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

開校前に行われていた体育祭での表現運動や文化祭での劇などが、子どもたちにとって特別な経験となり、表現力や自尊感情の育ちにつながっていたこと、そして「良い経験をさせてあげたい」という保護者の皆様の思いを、学校としても大切に受け止めております。コロナ禍を経て、学校行事は「元に戻す」のではなく、教育課程全体のバランスを踏まえて見直す流れが全国的に進みました。本校でも、計画の段階で、改善案を出し、新しいものを提案し、スリム化できる部分は精選し、より良い形を模索しております。行事の価値を軽視したり、教職員の負担軽減だけをねらったりするのではなく、本当に必要な経験が得られるよう、内容を丁寧に精選しています。限られた行事の中でも、子どもたちが協力したり、上級生に憧れをもったり、自分の力を発揮できる機会を大切にしていきたいと考えています。

また、行事だけでなく、日々の教育課程の中でも表現活動や役割をもって取り組む場を充実させ、子どもたちが成長を実感できる時間を積み重ねていけるよう努めています。いただいた思いを踏まえながら、子どもたちにとってより良い経験が保障できるよう、今後も工夫を重ねてまいります。

安全面については、通学路のカーブミラーの設置や校舎設備に関するご指摘をいただきました。ご心配をおかけしている点については、関係機関への相談・依頼を含めて適切に対応してまいります。また、学校内の安全点検についても、引き続き丁寧に取り組み、安心して通える学校づくりを進めてまいります。

学習に関しては、試験問題のミスなどのご意見もいただきました。ご指摘の点は改善すべき課題として重く受け止め、確認体制の見直しや、子どもたちが集中しやすい環境づくりに努めます。